



今年最後の観察会。抜けるような青空で、風もなく上着を脱ぎたくなるくらい暖かくなりました。今年の紅葉は終わりに近づいていますが、なかなかきれいでした。左はイソノキの枝先に残った葉。黄色と赤が混ざったように見えます。シロハラは来ているようですがツグミには会えませんでした。今年2月に続いて2回目、土壌生物の観察をしました。



タカサゴユ
リの種 この実の中に種がいくつあるかを調べた方に教

えてもらいました。高さ10cm 位の実に 1300 個あまり入っていたそうです。一つひとつの種は薄くて養分は少ないのですが、大量にまいたうちのわずかでも発芽すれば御の字なのでしょう。



ムラサキシジミ

暖かい日だったので越冬する蝶が出てきました。幼虫は樫やシイなどの若葉が食草。甘い蜜を分泌してアリの誘い。自分を守らせるそうです。



アシナガグモ

冬、歩いていると棚引くクモの糸が目に入ることがあります。子グモが糸を空中に流して飛んでいるのです。このアシナガグモもそうしてここにきています。



冬芽のいろいろ:左からソメイヨシノ、イソノキ、ヌルデ
矢印の先は葉の落ちた痕で葉痕と言います。①と②は円形ですが、③は馬蹄形です。冬芽は①では鱗を被り 6 つ見えます。②と③は毛が生えています。②と③は一つづつ見えます。冬芽は鱗や毛で覆うことで乾燥を防ぐのです。



タカノツメ

コナラは枝先で黄色や赤、茶色くなっていますが、この木は黄色く色付きます。落ち葉は次第に茶色くなり甘い香りを漂わせるようになります。



コミミズク

漢字で小耳木菟と書くとフクロウの一種の冬鳥ですが、これはヨコバイの一種の幼虫で5ミリくらいです。幼虫で越冬するよう

です。



成虫 →



土壤生物オカダンゴムシ

刺激すると右下のようにすぐ丸くなります。腐植質や生物の死体など柔らかいものを食べ



土壤生物イシムカデの仲間
体長 20 ミリ。小さなムカデの仲間で肉食性です。



土壤生物ヒゼンキビ

2ミリくらいの小型カタツムリ



土壤生物イレコダニの仲間

体長 0.5 ミリ前後。ササラダニという腐植を食べているダニの仲間です。この仲間は森の落ち葉の下にたくさんいて落ち葉を食べて分解し土を豊かにしています。



土壤生物ツチカニムシの仲間

体長 0.5 ミリ前後。蟹のような2本のハサミと大顎があり、歩き回ってトビムシやダニなどを捕まえて食べています。



土壤生物アヤトビムシの仲間

体長 2 ミリ弱。腐植を食べる

植物 ノコンギク、セイヨウタンポポ、コウヤボウキ実、シロダモ、シキザクラ (ジュウガツザクラは八重咲き)、冬芽 (ソメイヨシノ、イソノキ、イロハモミジ、ヌルデ、アラカシ、ヤマモモ、タブノキ、ニセアカシア)、紅葉 (チガヤ、ソメイヨシノ、イロハモミジ、オオモミジ、コナラ)、黄葉 (イソノキ、タカノツメ、コナラ)、赤い実 (ソヨゴ、ノイバラ)、白い実 (ナンキンハゼ)、クチナシ実、どんぐり (アラカシ、ウバメガシ)、テイカカズラ実はぜる、ヘクソカズラ (黄色い実・丈夫な蔓)、**昆虫** キタキチョウ、ムラサキシジミ、クロスジフユエダシャク、ミナミアオカメムシ、ムネアカアワフキ幼虫の巣、コミミズク幼虫、ヒラタアブの一種、ツマグロキンバエ、**クモ** ジョロウグモと卵、アシナガグモ幼体、チュウガタシロカネグモ幼体、**鳥・その他** ジョウビタキ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、カワウ、カルガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ大きな群れ、オオバン、**土壤生物** オカダンゴムシ、イシムカデ、ツチカメムシの一種、ヒメワラジムシ、ツマジロナガカメムシ?、フサヤスデ、アヤトビムシの一種、シロトビムシ、ササラダニの一種、その他のダニの仲間2種、ヒメミミズ、キノコバエ幼虫?、貝類 (ナミコギセル、ヒゼンキビ、ゴマガイ?) ※末尾?は検討中で仮の名前です※

次回12月9日(木)午前9時30分水資源機構P前、参加費100円・コロナ非常事態下と雨天は中止